

森林官からの「おたより」

下越森林管理署 三川森林事務所

森林官 高橋 桂一

当森林事務所は、新潟県の北東部に位置し、福島県と隣接する東蒲原郡阿賀町（津川町・上川村・鹿瀬町・三川村が平成17年に合併）の旧三川村にあり、約6,700haの国有林を管理しています。スギを主体とした人工林が多く、良好な生育をしています。

また、かつては、優良天然スギが多いことでも知られ、「三川スギ」のブランド名は、旧前橋局管内でも有



現在の会津街道

名だったと聞いています。

阿賀町は、旧会津藩領であり、戊辰戦争の史跡等が数多く残っている町ですが、その一つに、当事務所管内行地山国有林内にある会津街道（通称「殿様街道」）があります。

会津街道は、江戸時代、参勤交代で、新発田藩・村上藩主が利用したことから、「殿様街道」と言われるようになり、今でも当時整備された石畳が残っています。

最初に巡視を兼ねて歩いたときは、浅学な自分でも何かしら感激を覚えたものでした。会津藩主の松平氏も、代々この街道を通り領内を巡視したと史料に記されています。

また、文化11年（1814年）にはかの十返舎一九が、さらには、嘉永5年（1852年）には、幕末の志士吉田松陰もこの道を旅しています。

その当時は、「三川スギ」が鬱蒼と繁り、壮観な風景だったと思われれます。

旧三川村行地集落から行地山国有林227林班へ向かう「殿様街

道」の途中の民有林内には一里塚も残っており、街道を行き来した旅人らの目安となっていたようです。

また、同じ227林班内には、二本の大ぶな（幹周3.48m、4.11m、樹高は、二本とも27m）があり、旅人の休憩の目安となっていたようです。

説明看板の前のベンチに座ると、当時の歴代藩主が眺めたであろう景色と同じ景色が眺められ、まるで悠久の歴史の中に舞い戻ったかの様な気持ちになります。

これからも、貴重な会津街道を後世に残して行くために、管理、巡視をこまめに行い、保存に努めたいと思います。



大ぶなの説明看板



殿様街道の大ぶな

当事務所では、私が赴任する2年前に基幹作業職員が全員退職しており、今は、臨時雇用で業務を行っています。管理業務主体ですが、2世代目、3世代目の「三川スギ」を育成しようと日々造林地内の巡視を行っています。

また、管内在住の元基幹作業職員の方々と毎年意見交換し、山作りの参考にしています。

さらに、阿賀町は、国有林、民有林を問わず山菜が豊富で、時節柄入林者が多く、山火事警防への啓蒙、協力を呼びかけながらの日々が続いています。